

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月10日
【四半期会計期間】	第82期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	栄研化学株式会社
【英訳名】	EIKEN CHEMICAL CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表執行役社長 和田 守史
【本店の所在の場所】	東京都台東区台東四丁目19番9号 山口ビル7
【電話番号】	東京03（5846）3305（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 兼 常務執行役経営管理統括部長 阿部 克司
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区台東四丁目19番9号 山口ビル7
【電話番号】	東京03（5846）3305（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 兼 常務執行役経営管理統括部長 阿部 克司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 栄研化学株式会社 関西営業部 （大阪府大阪市中央区安土町三丁目3番9号）

（注）上記の関西営業部は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第81期 第3四半期連結 累計期間	第82期 第3四半期連結 累計期間	第81期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	27,067	28,028	35,761
経常利益 (百万円)	4,340	4,420	4,681
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	3,231	3,335	3,447
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,131	3,311	3,397
純資産額 (百万円)	34,729	37,263	35,014
総資産額 (百万円)	46,091	49,008	47,279
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	87.79	90.43	93.63
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	87.04	89.74	92.84
自己資本比率 (%)	74.8	75.4	73.5

回次	第81期 第3四半期連結 会計期間	第82期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	34.21	26.87

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出が弱含むなかで製造業を中心に弱さが増しているものの、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続きました。海外経済は、全体として緩やかに回復しておりますが、通商問題を巡る動向や中国経済の先行きなどに留意が必要な状況となっております。

臨床検査薬業界におきましては、医療費抑制策により厳しい経営環境が続く、各企業はより一層のコスト競争力と積極的な海外展開が求められる状況となっております。

このような経営環境の下、当社グループは新経営構想“EIKEN ROAD MAP2019”の基本戦略に基づき中期経営計画を策定し、経営効率を高めるための基盤整備、グローバル展開の推進、国内販売の維持とシェアアップ、研究開発力の強化の4つを重点施策として、グループ全体で持続的な成長と収益性の向上に努めております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、海外向けの便潜血検査用試薬、尿検査用試薬・装置を中心に売上が増加し、28,028百万円（前年同期比3.6%増）となりました。

製品の種類別区分ごとの売上高では、微生物検査用試薬は、日本ベクトン・ディッキンソン(株)から導入販売していた血液培養検査用製品の販売契約終了による影響等で売上が減少し、3,592百万円（同10.3%減）となりました。尿検査用試薬は国内外向け尿試験紙の売上が伸長し、2,417百万円（同9.5%増）となりました。免疫血清学的検査用試薬は、海外向け便潜血検査用試薬の売上が大きく伸びたほか国内販売も堅調に推移し、16,054百万円（同3.1%増）となりました。生化学的検査用試薬及び器具・食品環境関連培地は、それぞれ479百万円（同1.9%増）、1,666百万円（同0.2%減）となりました。その他（医療機器・遺伝子関連等）は、海外向け尿検査用装置などの医療機器の売上が大きく伸び、3,817百万円（同21.7%増）となりました。

海外向け売上高につきましては、便潜血検査用試薬及び尿検査用試薬・装置の売上が大きく伸び、5,242百万円（同24.6%増）となりました。

利益面では、販売費及び一般管理費が研究開発費を中心に増加したものの、増収に伴う利益の増加により、営業利益は4,349百万円（同1.7%増）、経常利益は4,420百万円（同1.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,335百万円（同3.2%増）となりました。

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

前連結会計年度末に比べ総資産は1,728百万円増加、負債は520百万円減少、純資産は2,249百万円増加いたしました。

増減の主なものとして、資産の部では、棚卸資産が699百万円増加しております。また、野木事業所の隣接地を購入し土地が971百万円増加、隣接地を含む再構築のための整備の着手等により建設仮勘定が363百万円増加しております。負債の部では、仕入の増加により支払手形及び買掛金が457百万円増加、電子記録債務が290百万円増加、賞与の支払により賞与引当金が372百万円減少、設備投資等の支払により流動負債その他が712百万円減少しております。純資産の部では、配当金の支払があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が2,228百万円増加いたしました。自己資本比率は前連結会計年度末の73.5%から75.4%となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1,966百万円であります。

なお、第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した主要な設備の新設計画は、次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月	
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了
当社 本社	東京都 台東区	検査薬事業	基幹システム (生産)	614	33	自己資金	2019年8月	2021年5月

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	123,900,000
計	123,900,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	43,541,438	43,541,438	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100 株であります。
計	43,541,438	43,541,438	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	-	43,541,438	-	6,897	-	7,892

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 6,659,600	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 36,871,300	368,713	-
単元未満株式	普通株式 10,538	-	-
発行済株式総数	43,541,438	-	-
総株主の議決権	-	368,713	-

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
栄研化学(株)	東京都台東区台東4丁目19番9号	6,659,600	-	6,659,600	15.29
計	-	6,659,600	-	6,659,600	15.29

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,554	7,517
受取手形及び売掛金	11,959	11,925
有価証券	-	200
商品及び製品	3,551	4,094
仕掛品	1,244	1,281
原材料及び貯蔵品	1,030	1,149
その他	512	597
流動資産合計	25,852	26,765
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,137	19,219
減価償却累計額	11,387	11,767
建物及び構築物(純額)	7,750	7,452
機械装置及び運搬具	6,225	6,101
減価償却累計額	4,746	4,855
機械装置及び運搬具(純額)	1,479	1,245
工具、器具及び備品	3,593	3,732
減価償却累計額	3,081	3,222
工具、器具及び備品(純額)	512	510
土地	996	1,968
リース資産	520	452
減価償却累計額	264	247
リース資産(純額)	256	205
建設仮勘定	100	464
有形固定資産合計	11,095	11,846
無形固定資産	744	982
投資その他の資産		
長期預金	5,900	5,800
その他	3,694	3,630
貸倒引当金	6	16
投資その他の資産合計	9,587	9,413
固定資産合計	21,427	22,242
資産合計	47,279	49,008

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,148	4,605
電子記録債務	2,432	2,722
未払法人税等	770	552
資産除去債務	15	15
賞与引当金	739	367
返品調整引当金	7	5
その他	2,868	2,156
流動負債合計	10,981	10,424
固定負債		
資産除去債務	33	32
その他	1,250	1,286
固定負債合計	1,284	1,319
負債合計	12,265	11,744
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,897	6,897
資本剰余金	7,935	7,935
利益剰余金	22,869	25,098
自己株式	3,165	3,165
株主資本合計	34,537	36,765
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51	29
為替換算調整勘定	88	39
退職給付に係る調整累計額	79	126
その他の包括利益累計額合計	219	195
新株予約権	257	302
純資産合計	35,014	37,263
負債純資産合計	47,279	49,008

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	27,067	28,028
売上原価	14,908	15,536
売上総利益	12,159	12,492
販売費及び一般管理費	7,880	8,142
営業利益	4,278	4,349
営業外収益		
受取利息	3	5
受取配当金	5	4
受取賃貸料	13	11
業務受託料	12	4
補助金収入	-	21
その他	51	35
営業外収益合計	85	83
営業外費用		
支払利息	5	3
為替差損	7	-
減価償却費	5	-
支払手数料	-	5
その他	5	4
営業外費用合計	24	12
経常利益	4,340	4,420
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	97	33
特別利益合計	98	33
特別損失		
固定資産除売却損	17	12
特別損失合計	17	12
税金等調整前四半期純利益	4,422	4,441
法人税等	1,191	1,106
四半期純利益	3,231	3,335
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,231	3,335

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	3,231	3,335
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	99	22
為替換算調整勘定	47	48
退職給付に係る調整額	47	47
その他の包括利益合計	99	23
四半期包括利益	3,131	3,311
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,131	3,311
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 当第3四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。
 当第3四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形	17百万円	17百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
減価償却費	1,173百万円	1,200百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年 4月27日 取締役会	普通株式	457	25	2018年3月31日	2018年6月4日	利益剰余金
2018年 10月23日 取締役会	普通株式	479	13	2018年9月30日	2018年12月3日	利益剰余金

(注)当社は2018年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、2018年3月31日を基準日とする配当につきましては、株式分割前の株式数を基準とした金額を記載しております。

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年 4月25日 取締役会	普通株式	626	17	2019年3月31日	2019年6月3日	利益剰余金
2019年 10月25日 取締役会	普通株式	479	13	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

当社グループは、検査薬事業のみの単一セグメントとなるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

当社グループは、検査薬事業のみの単一セグメントとなるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	87円79銭	90円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	3,231	3,335
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益(百万円)	3,231	3,335
普通株式の期中平均株式数(千株)	36,805	36,881
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	87円04銭	89円74銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	320	280
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの の概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

決算日後の状況

特記事項はありません。

重要な訴訟事件等

該当事項はありません。

剰余金の配当

・2019年10月25日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額・・・・・・・・・・・・・・・・ 479百万円

(ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・・・・・ 13円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・ 2019年12月2日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月7日

栄研化学株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 海野 隆善 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊東 朋 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている栄研化学株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、栄研化学株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。